



学校だより

令和3年10月13日
白山市立鳥越中学校

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について

今年5月、今年度の全国学力・学習状況調査が3年生を対象に実施されました。また、石川県の結果については、先日発表されましたので、周知のことと存じます。

つきましては、本校の結果について、分析・考察を行い、改善策等を熟考いたしましたので、保護者の皆様にお知らせいたします。

【学力の状況】

1 県との比較

◎ 本校の平均正答率と県の平均正答率との比較

国語	県平均並み
数学	県平均を上回る



2 分析・考察

○国語

- ・問題文の条件にある「やりとりを踏まえ」という部分を読み落としていた解答がみられた。また、自分の考えを書くように求められているにも関わらず、発言者の立場に立って解答を書いた解答が全体の2割程度あった。加えて、文脈の中における語句の意味を理解する問題の正答率が低いなど、全体的に【読むこと】に課題がみられる。
- ・正しい敬語を答えられたのが全体の4割、敬語の種類を正しく答えられたのが全体の5割と低かった。二重敬語を書いてしまう生徒や、敬語と敬語の種類が一致していない生徒が見られ、知識が十分定着していない様子が見える。

○数学

- ・文字式を使って説明する場面で、文字を用いて表現したり、文字を用いた式の意味を読み取ったり、計算したりすることに課題がみられる。
- ・条件を保ったまま図形の形を変えながら観察し、辺や角について変わらない性質を見出すことに課題がみられる。
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明することに課題がみられる。
- ・相対度数の必要性と意味の理解に課題がみられる。

3 改善策等

○国語

- ・話合いや聞き取りの授業を適宜行う中で、質問の意図を捉えることや、話合いの話題や方向を捉える場面を設定する。
- ・文章を書く場面で、根拠を示す際には具体例を示すよう指導する。また、段落相互の関係にはどのようなものがあるか確認する場面を設定する。
- ・既習の語句ではなくても、文脈の中で推測する場面を設定し、相手が（問題文が）何を求めて問いかけているのか理解するように促す。
- ・敬語の働きや種類を理解し、適切な使い方を考える場面を設定する。

○数学

- ・基礎的な知識・技能を定着させるため、プリント演習や小テストを行う。
- ・数量の関係を文字式で表したり、文字式を読み取ったりする場面を設定する。
- ・関数の表、式、グラフを相互に関連付ける場面を設定する。
- ・表、式、グラフの「用いるもの」と「用い方」を明確にして、問題解決の方法を説明する場面を設定する。
- ・証明を書くだけでなく、読む場面を設定する。
- ・ヒストグラムや代表値を用いて資料の傾向を捉え、説明する場面を設定する。
- ・箱ひげ図を用いて資料の傾向を捉え、説明する場面を設定する。

(裏面に続く)

【 学習・生活の状況 】 ※質問紙調査の結果より

1 主な質問事項についての結果と分析・考察

○学習面

- ・ほとんどの生徒は家庭学習を平日 1 時間から 2 時間、休日 2 時間から 3 時間、計画的に行っているようである。一方、新聞を全く読まないと答えた生徒が 7 割であり、家庭での読書習慣の定着も低く、多様な文章に触れる機会に乏しいようである。
- ・「地域の行事に参加している」と答えた生徒は 8 割であるのに対して、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」と答えた生徒は 4 割に過ぎない。
- ・「授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と答えた生徒は 7 割、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と答えた生徒も 9 割近くであった。だが、見方・考え方を働かせて、自分自身で次の課題を見つけていくことに課題が見られる。

○生活面

- ・ほとんどの生徒が規則正しい生活を送れているようである。しかし、4 割の生徒は家庭でゲームをして過ごす時間が長く、携帯電話・スマホ・コンピュータ機器を持っている生徒の中においても 3 割近くの生徒が「家族との約束を守らない」、「家族との約束がない」と答えている。
- ・「将来の夢や目標を持っている」と答えた生徒の割合は 4 割であり、一昨年の結果と比較すると半分になっている。このことが学習に向かう意欲の低さにつながっているとも思われる。学校から与えられた課題に対してはまじめに取り組むが、自ら考えることに対しては抵抗感があると思われる。

2 改善策等

○学習面

- ・新聞記事の内容で授業内容と関連した事柄があれば授業の中で紹介したり、新聞記事を活用した探究する学習を取り入れたりと新聞を身近に感じる場面を設定する。こうした取組を通して学校図書館の新聞や家庭の新聞に興味・関心を持って読むなど文章に親しむ習慣を養い、家庭学習のさらなる充実につなげる。
- ・今年度の総合的な学習の時間は地域課題等を踏まえた探究課題に取り組んでいる。この学習における体験活動や地域の人々との触れ合いを通して地域への愛着を深め、地域への貢献意欲を高めていく。また、地域社会が求める資質・能力を理解することを通して社会に目を向ける生徒を育てていくことも大切にする。
- ・各教科等の学習において学習内容と実社会や実生活との関連を図ったり、各教科で学習した内容が他の教科で活用・発揮できるようなカリキュラムをデザインしたりして「深い学び」が実現できるような教育課程を編成して取り組んでいく。

○生活面

- ・家庭でのゲーム時間の削減に向けて、生徒会が月に 1 度「ノー情報端末デー」を設定し、呼びかけを行ったり、道徳の時間に「節度・節制」を考える授業をしたりすることで自律を意識する機会を設ける。
- ・生徒たちが目標を持って他者と意見を交わしながら学習に取り組めるようにしていくことにより学校生活が充実すると考える。安心して意見を交わすためには自己肯定感を育成していくことが欠かせない。現在、「とりごえもんの羽」を通して生徒たちが互いの良さを認め合う活動を行っているが、教師も子ども一人一人の良さを見付ける、褒める、認める、励ます、可能性を広げる活動をより充実させ、子ども自身が自分を価値ある存在として認められるような指導を心がける。このような学校基盤のもと、将来への見通しを持てるようキャリア教育を充実したものにすることで「将来の夢や目標を持っている」と自信をもっていえる生徒を育てたいと考える。

本校ではこういった機会を通して、生徒の学びが充実するよう改善活動に取り組んでいます。